

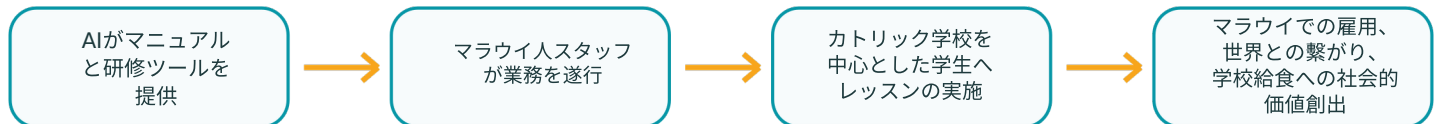
「Seibo Impact Lesson」のご提案

倫理的「デジタル人材」育成と国際教育

コアメッセージ

Seiboはマラウイでの有意義な雇用を創出するためにAIとデジタルツールを活用しています。AIはマニュアル、議事録、文書、ワークフロー、スタッフ研修の作成を支援し、マラウイ人スタッフがサービス提供の主体となり、尊厳を持って働くことができるようにしています。中でも世界と繋がり独自の文化の発信や英会話を実施するImpact Lessonは、デジタルツールへの公正なアクセス、参加を促進するにカトリック社会教説に繋がります。

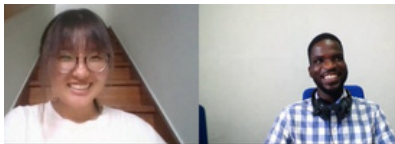
Impact Lesson活用による社会的教育的価値の創出



回勅 『マグニフィカ・ヒューマニタス』

教皇レオ14世は、AIとデジタル技術の倫理的な使用を呼びかけることが急務として、史上初の試みとして教皇自らが会長の発表を行い、多くのAI企業人も発表の場に加えつつ、カトリック教会に呼びかける回勅、『マグニフィカ・ヒューマニタス』を发布了。

Seiboは、倫理的AIの利用、尊厳を意識した雇用、職業教育、貧困削減、測定可能な学校給食が生み出すインパクトが融合する、生きた回勅のケーススタディを提供できます。アフリカのマラウイと日本、そして全世界をつ繋ぐオンラインレッスンとその結果としての雇用創出、給食支援の事例をご共有できれば幸いです。



私たちの提案

インパクトレッスンは、英会話のレッスン、現地語であるチェワ語でのやり取り、文化交流のセッションが含まれ、すべてBeehive Digitalを通じた持続的な雇用により、訓練されたマラウイ人スタッフが実施します。

AIは研修、文書化、ワークフロー最適化を支援しますが、授業を実施するマラウイ人にとって代わるものではありません。スタッフがサービス提供の中心であり続け、尊厳を保ち、仕事に誇りを持って持続的に働けるように環境を保ち、マラウイの貧困削減と給食資金に直接つながる持続可能な雇用を確保していきます。

マラウイの人口の約50%は18歳未満です。したがって、彼らの未来を創ることは、人間中心の経済を築くことで、世界における私たちの未来とつながる可能性があります。

インパクトレッスンに参加することで得られる社会的効果

- 2026年5月に340,565食を提供 | 登録児童20,668人 | 出席率88.4%
- ムジンバで296,994食、ブランタイヤで43,571食—毎日18,266人の児童に届けています
- 若いマラウイ人のための尊厳ある雇用：人間の尊厳を守る倫理的でAI支援のデジタルサービス業務
- 体系的な研修とカトリック学校パートナーシップを通じた国際的な繋がり
- AI支援の研修とスキル開発 | サービス収入が給食、教育、貧困削減に資金を提供

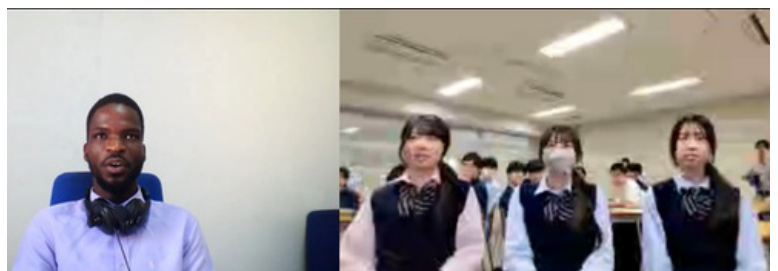
レッスンの内容

50分間のオンラインレッスンのパッケージ。
(25分、もしくは45分の個人レッスン)

含まれるもの：

- マラウイ人スタッフとのライブオンラインセッション
- 教師用の教授ガイド
- 生徒用ワークシート
- 振り返り活動（日本人スタッフと英語、日本語にて）
- レッスン後のマラウイへの社会的インパクトレポート
- 日本人スタッフとの活動の継続オプション

日本では、マラウイの給食支援のためのソーシャルビジネス探究学習を実施しています。詳しくは[こちら](#)。



受講生への影響とお互いの成長

私たちは50以上のカトリック学校と協力し、社会的企業とそのビジネスモデルを伝え、協働しています。学生たちはモデルを学ぶだけでなく、マラウイ産のコーヒーや紅茶などのエシカルな製品を、独自のブランドで、自ら考えたマーケティング方法で広め、社会的インパクトを作りだしています。また、インパクトレッスンを通じてマラウイの人と定期的に繋がり、「顔が見える支援」に繋がっています。

多くの学生がマラウイとの交流、日本人のスタッフの講演を機に、活動を展開しており、中学生から大学生を中心としたスタッフがいます。

マラウイの人々も同時にレッスンを通して、日本人の成長とともに、雇用の促進、世界と繋がる体験と学習によって成長しています。

生徒の成長の流れ



日本でのネットワーク



学生の活動の様子

日本人からのレッスンやマラウイとの交流で、活動のきっかけを得る



自らの学校や地元、自分の才能を使って、貢献できる方法を見つける



長期的なプロセスとしてSeiboのインターンやボランティアとして関わる

私たちの育成の流れ	評価項目	収集するエビデンス
レッスン前	日本のSeiboスタッフが、日本また他の国の学生たちに、私たちのミッションと社会的インパクトについて説明	せいぼのミッションを基に、どんな活動が展開できるかを考える。
インパクトレッスン中	質問による参加度、実施後の活動予定の深化、プロジェクト実施への積極性	マラウイスタッフがリードし、学生たちが現地との距離感を縮め、関心を持てるようにする。
レッスン後	理解、共感、行動意欲の変化	学校でのマラウイ産商品の販売によるチャリティやその他の活動のための準備
フォローアップ活動	コーヒー/紅茶販売、研究発表、学校プロジェクト、寄付活動	日本と現地スタッフが協力してソーシャルインパクトレポートを作成

より持続可能な活動のために レッスン後の活動について



- マラウイ産コーヒーや紅茶の販売による生徒主導のソーシャルビジネス体験
- AI、労働の尊厳、学校給食、世界の貧困に関する研究発表
- 日本とマラウイのスタッフと雇用と教育、食が与えるインパクトについてまとめる
- インパクトレッスンをさらに広げ、雇用とマラウイの人が日本と繋がるきっかけを創出するためにできることを考える。



カトリック教育の観点からの私たちの目標

- ・人間の尊厳：神の子としてのすべての個人の固有で神聖な価値を尊重し守ること
- ・連帯：グローバルな相互依存を認識し、共通善の追求にコミットすること
- ・補完性：最も効果的なレベルで決定と行動が取られるよう地域社会に力を与えること
- ・貧しい人々への優先的選択：すべての取り組みの中心に疎外された脆弱な人々のニーズを置くこと

世界とのビジネスプロセスアウトソーシング

私たちは教材を提供するだけでなく、マラウイの若者に職業を創出しています。地元のデジタル人材による持続可能な経済的自立モデルが、マラウイでは強く求められています。マラウイの人口の半分は18歳未満であり、若者にとってまともな仕事の選択肢は極めて限られています。私たちの活動「インパクトサービス」は、彼らに持続可能な職業を提供するチェンジメーカーとなり得ます。

インパクトレッスンを超えて、インパクトサービスは企業との価値創造に繋がります

マラウイの人材にとって、デジタル経済への参加のための育成の場となります。また、Beehive Digitalは世界中からクライアントを獲得し、カスタマーサポートやソフトウェアエンジニアリングを、PC、ソーラーパネル、Starlinkによるwifiなどの現地リソースで、サービスを支えています。

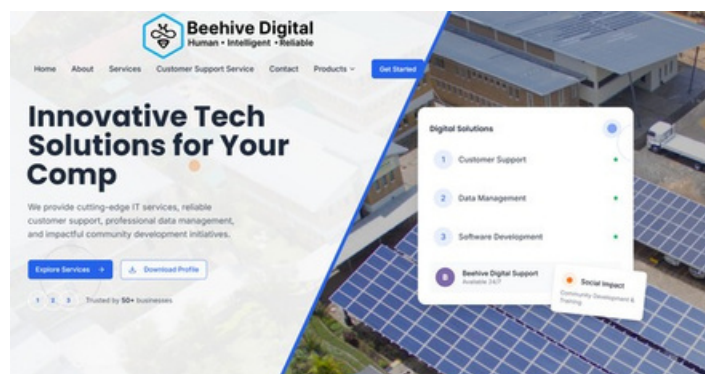
マラウイの人材が提供できる企業へのサービス

マラウイでは人口の約80%が農業に従事しており、それ以外の仕事の選択肢はほとんどありません。しかし、インパクトサービスはBeehiveソーシャルエンタープライズキャンパスを通じて、より多くの機会を創出できます。

サービス分野	内容	社会科学的価値
カスタマーサポート	問い合わせ対応、ヘルプデスク、ユーザーコミュニケーション	有償デジタルサービス業務とコミュニケーションスキル
AI支援マニュアル	議事録、文書化、トレーニングガイド、ワークフローメモ	AIはスタッフの能力を支援し、スタッフに取って代わるものではない
バックオフィス+データ	データ入力、レポート、品質チェック、管理サポート	専門的経験とグローバルな仕事への公平なアクセス
IT/デジタルサポート	Beehive/マラウイチームとのデジタルオペレーション	地元の人材がグローバルなサービスチェーンで可視化される

Beehive ソーシャルエンタープライズのBeehive Digital

Beehive Digitalはマラウイ・ブランタイヤにあるBeehive職業訓練センター内のソーシャルエンタープライズの一つです。一部の学生は同キャンパス内のJohn John II ITリーダーシップカレッジで学び、職場でその才能を活かし続けています。キャンパスはボスニアの巡礼地にちなんで名付けられた英国チャリティ、Krivevac Projectの支援を受けています。



Seibo Japanによる講演

NPO法人せいぼは、マラウイの給食支援のための活動を、全国の小学校～大学の学生とも実施しています。スタッフにも中学、高校の時から探究活動や課外活動で団体に関わり、現在も継続的に活動している大学生も多くいます。私たちは単に一度の講演のインプットで終わらず、マラウイを通して世界を知り、具体的に自分ができる国際支援を考えてもらい、実践を共にしていくプログラムを実施しています。

マラウイコーヒーの学生、学校の独自のブランディングや販売、マラウイ現地との連絡を取りながら実施するクラウドファンディング、学生の地元のお店や企業との協働企画など、様々な形で主体的に、活動に関わって頂くきっかけを、講演会でご提供しています。

講演会と次のアクションへの流れ



高校での授業



大学でのゼミの様子

日本人からの講演会や学生スタッフからの具体的な活動例を聞く。



自分の取り組んでいるか活動、研究分野と繋げ、実行できるプランを考える



マラウイのImpact Lessonなどで、現地との繋がりを構築し、さらに活動を継続させていく。

具体的な流れ	内容	期待する効果
講演会	日本のSeiboスタッフが、団体創設の経緯、マラウイの現状とスタッフの仕事、日本での活動や実際の活動例をお話し、協働できる方法を考えます。	NPOの仕組みを理解し、自分がその経済、支援の仕組みにどのように入れるかを考える。
活動を考える	自分の研究分野、学校のカリキュラム、個人の探究テーマなどに合わせた問いを持ち、考えて見る。	他の学生の事例などを基にして、自らも具体的な活動ができるように計画を立てる
実践してみる	実際に販売の計画やプロジェクトの内容を、日本人スタッフと考える。	マラウイコーヒーの販売や資金調達プロジェクト、Impact Lessonの普及などによって、具体的な支援に繋げる。
継続的な活動	コーヒー/紅茶販売、研究発表、学校プロジェクト、寄付活動	日本と現地スタッフが協力してソーシャルインパクトレポートを作成

実際に40校以上のカトリック学校で実践をされています。
(実践校は[こちら](#))



- サレジオ学院中学高等学校：総合探究とコーヒー、紅茶の販売
- 光塩女子学院中等科高等科：学園祭での販売、放課後の特別授業
- 聖ウルスラ学院英智高等学校：地元のイベントでの販売と国際支援
- 上智大学：大学とのコラボブランドのドリップバックの販売



カトリック教育の観点からの私たちの目標

- ・ 宗教科目で学習した内容や大学の建学の精神を具体的な実践知に変え、行動する。
- ・ カトリック学校だからこそ向けられる国際支援への取り組みを、具体的に経験してキャリア教育に繋げる。
- ・ カトリック教会の社会教説や聖書の教えを、社会の中で実践することで学びを深化させる。
- ・ SDGsと教会の社会的への態度、NPOの働き全体の繋がりを理解し、社会人としての成長を促す。

ご提案の要約

カトリック社会教説との関連

社会教説	カトリック司牧的意味	カトリックの価値観と教えに基づく Seiboの提案と提供できる成果
人間の尊厳	人はデータやコスト、代替可能な労働力に還元されない。	マラウイのスタッフがサービス提供の中心であり、AIは彼らの業務と研修を支援する。
連帯	学生たちは、抽象的な学習ではなく、具体的なマラウイ人との出会い、そのために必要な経済の仕組みを体感します。	インパクトレッスンがカトリック学校とマラウイの直接対話を生み出す。
補完性	マラウイを貧しい国とみるのではなく、お互いの違いから学べるものを考える。	マラウイには雇用と給食支援を提供し、日本や他国には国際交流の機会と国際的ネットワークを提供する。
召命	ユニークなマラウイ人との出会いから、自分ができることを考える。	若いマラウイ人が英語、デジタルスキル、サービス業務を活用し教育と雇用の成長を促す。
貧しい人々への優先的選択	脆弱な人々が経済的・技術的設設計の中心に置かれなければならない。	サービス収入とレッスンへの参加が学校給食と子どもの支援に還元される。

Magnifica Humanitasとの関連

この回廊はAIの発達を社会科学的に大事な成長機会と位置づけ、人間の尊厳、貧しい人々への優先的選択、デジタルリテラシーの普遍的な促進という倫理性を加えつつ教会としてAI、デジタル技術との共存をめざしています。SeiboはこのMagnifica Humanitasの理念の実現に対して、具体的な事例を提供し、国境を越えて世界中の人々がマラウイを通して繋がり、全ての人々に対するAI、デジタルテクノロジーの適切な利用について考え、行動できる指針を与えます。

結論

カトリック教育的価値：

倫理的デジタル人材を育成：SeiboはMary Queen of Peace Catholic Campusの若者がデジタル技術を批判的、責任を持って、創造的に活用できるよう支援しています。「インパクトレッスン」を通じて、若いマラウイ人は受動的なデジタルデータに還元されることなく、英語とデジタルスキルを活用して他者に奉仕し、自らの賜物を生かせる召命を発見できるように促していきます。

カトリック社会的価値：

補完性、連帯、貧しい人々への優先的選択の促進：デジタル技術の利用について訓練を受けたチームによって行われることで、Seiboは現地と協働したお互いの補完性を実現し、現地のオーナーシップと主体性を構築しています。この事業構造は貧しい人々への優先的選択を直接体現し、デジタルレッスンからのサービス収入をマラウイの子どもたちへの毎日22,000食の学校給食に転換し、現地の雇用にも繋げています。

最終的に、Seiboはデジタル技術を真の連帯のツールに変え、国境や抽象的な学びを越えて、グローバルな共通善を育む真の人間同士の出会いを創出していきます。

Seibo Japan

2016年より、日本からの活動を通じてマラウイで学校給食を提供しています。毎日約22,000食の学校給食をマラウイの子どもたちに届けています。その過程で、多くのカトリック学校と協力し、マラウイ産コーヒーや紅茶を販売を通して、具体的に支援を生み出す経済の中で、学生たちと活動しています。

その過程で70校以上のカトリック学校をチャリティパートナーとして獲得し、バチカンの文化教育省のニュースレターにも、活動を取り上げて頂いています。(詳細はこちら)
また、Seiboの代表の山田は信徒、家庭、いのちの部署のInternational Youth Advisory Bodyのメンバーとして、バチカンで活動しました。

お問い合わせ：山田真人 (makoto.yamada@seibojapan.or.jp)

